

群 教 セ	F08 - 01
	平 29. 265 集
	生徒指導

自他を大切にしたい自己表現のできる生徒の育成

—他者と関わり、学び合う活動を取り入れた授業を通して—

特別研修員 三澤 葵

I 研究テーマ設定の理由

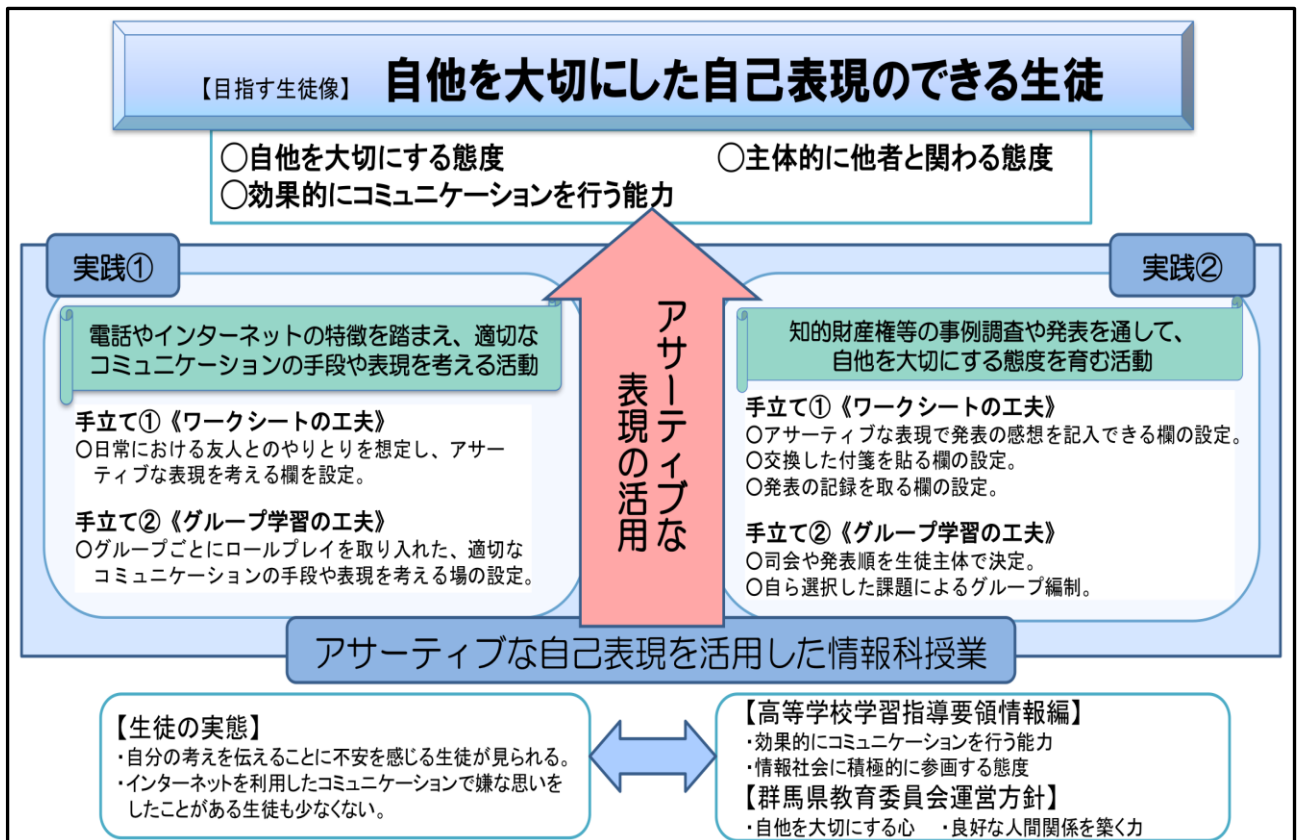
近年、高校生の間では SNS がコミュニケーションツールとして多用されている。高等学校学習指導要領（文部科学省，平成 21 年 3 月）の教科「情報」における科目「社会と情報」の目標では「効果的にコミュニケーションを行う能力を養い，情報社会に積極的に参画する態度を育てる。」と示されている。また，県立学校指導の重点（群馬県教育委員会，平成 29 年 4 月）における教育委員会運営方針の基本施策では，「自他を大切にしたい心」や「良好な人間関係を築く力」の育成を掲げている。

平成 29 年 5 月に，「社会と情報」を担当する学級で実施したアンケートでは「相手に自分の気持ちを上手に伝えられないことが多い」と回答した生徒が 25.0%，「SNS などのインターネットを通してコミュニケーションをとる場面で嫌な思いをしたことがある」と回答した生徒が 68.8%であった。また，「思いや考えを伝え合うときに一番大切だと思うことはどれですか」という問いには，「お互いの伝えたいことを理解しながら話し合いを進めること」が 34.3%と最多であった。このことから，「自分の気持ちを上手に表現する力」と「相手の気持ちを考え表現する力」を育成することは，授業における話し合い活動の充実や良好な人間関係を築く上で大変有効であると考えられる。

このような実態を踏まえ，教科「情報」の授業を通して，自他を大切にしたい自己表現のできる能力を育成したいと考え，本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

「自分の気持ちを上手に表現する力」と「相手の気持ちを考え表現する力」を育成するために、次のような手立てで実践を行った。

手立て1 「自他を大切にすることを身に付けるためのワークシートの工夫」

- ・他者の発表の良い点をアサーティブな表現で付箋に記入するとともに、ワークシートには付箋の貼付欄を設定することで、他者からのメッセージを可視化し、自他を大切にすることを身に付ける。
- ・他者の発表時に記録を取る欄をワークシートに設定することで、他者の考えを理解しようとする態度を身に付ける。
- ・日常における友人とのやりとりを想定し、アサーティブな表現を考える欄をワークシートに設定することで、自分事として考え、自他を大切にすることを身に付ける。

手立て2 「主体的に他者と関わる態度を身に付けるためのグループ学習の工夫」

- ・グループの司会者や発表順を生徒主体で決定することで、主体的に他者と関わる態度を身に付ける。
- ・個人情報の保護や知的財産権に関する調べ学習において、自ら選択した課題によってグループ編制を行うことで、自分事として考え、主体的に他者と関わる態度を身に付ける。
- ・友人との約束を断る場面で三つの異なる伝達手段（SNS・電話・直接会って）ごとにグループでシナリオを作成し、ロールプレイを行うことで、効果的にコミュニケーションを行う能力と主体的に他者と関わる態度を身に付ける。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 発表者の良い点をアサーティブな表現で付箋に書き交換する活動では、発表の内容や発表態度の良かった点のみならず、「こうするともっと良くなると思う」という生徒自身の意見なども付箋に書かれてあり、自他を大切にすることを身に付ける育成に繋がったと考えられる。さらに、発表後には発表者に対して自然と拍手が起こり、発表者の頑張りを生徒同士で認め合う姿も見られた。
- グループの発表においては、多くのグループで生徒が主体的に司会者や発表順を決めることができた。また、生徒同士で「それはどういうこと？」などと互いに質問し合う姿も見られ、自ら選択した課題によってグループ編制をしたことで主体的にグループの発表や話し合い活動に取り組むことができたのではないかと考える。それは、ワークシートにおける振り返り欄の「グループの発表や話し合い活動では、他の人と積極的に関わることができましたか」という質問に、90.6%の生徒が「とても」と答えていることから読み取れる。
- ロールプレイを取り入れたことで、三つの異なる伝達手段それぞれにおいて様々な視点で考え、より良いコミュニケーションになるよう生徒同士で活発に意見交換することができた。また、生徒は自分事として真剣に考え、表現しようという意欲が見られた。ワークシートにおける振り返り欄の「目的や場面に応じてコミュニケーションの手段を適切に使い分ける必要があると実感できましたか」という質問に、92.9%の生徒が「とても」と答えている。このことから、情報社会に積極的に参画する態度を養う上で必要とされている効果的にコミュニケーションを行う能力の育成に、一定の効果があったと言える。

2 課題

- 数名ではあるが、自他を大切にしたい自己表現をすることが上手にできない生徒も見られた。生徒に提示するアサーティブな表現の具体例の数や授業内でアサーティブな表現を考える場面を増やすことで、自他を大切にしたい自己表現ができる能力のさらなる向上を図っていきたい。
- グループの構成人数の関係から、第一希望の課題を調べることができない生徒もいた。生徒の希望を優先してグループを柔軟に編制できる工夫を見付けたい。

実践例

1 単元名 「情報安全」 (第1学年・2学期)

2 本単元について

本単元では、個人認証と暗号化などの技術的対策や情報セキュリティポリシーの策定など、情報セキュリティを高めるための様々な方法を学習する。また、多くの情報が公開され流通している現状を認識し、情報を保護することの必要性和そのための法規及び個人の責任を学ぶ。本単元を通して、情報セキュリティ確保の重要性を理解し、技術的対策と組織的対応を適切に組み合わせることができる力を育てたい。また近年、知的財産や個人情報の保護などの観点の理解と情報収集や発信等における適切な判断が若い世代には求められており、情報社会の中で様々な問題を抱える高校生にとって、その判断力の育成は急務である。これらの情報収集や発信等における適切な判断には、自他を大切にす姿勢とそれを支える思考力、表現力が必須である。それらの力を育成するために、ワークシートやグループ学習の工夫し、自他を大切にす具体的な自己表現ができるよう、思考の道筋を示しながら思考、表現、判断の能力の育成を目指す。

具体的には、個人情報の保護や知的財産権等の権利を理解するために実際に起こった事例を調べ、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う活動を取り入れる。また、生徒指導・教育相談の指導として、自他を大切にす自己表現ができるよう、ワークシートを活用し、他者と関わり学び合うことができるグループ学習を取り入れる。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	情報社会において、安全に情報機器を利用していくためにどのようなことに注意する必要があるのかを学ぶ。さらに、著作権者の権利等を学び、社会における事象と関連させて考える活動を通して、問題点を判断し、未然防止に向けた取組を考えることができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス対策などの情報セキュリティに対して、関心を持っている。 ・著作権などの侵害事例について、関心を持っている。 ・アサーティブな表現を活用しようとする態度が見られる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・パスワードの重要性やコンピュータウイルスについてまとめることができる。 ・RSA暗号に用いる公開鍵と秘密鍵の組み合わせを適切に思考して判断できる。 ・個人情報の保護や知的財産権に関する事例について、問題点を判断し、未然防止に向けた取組を考えることができる。 ・自分の考えを他者に伝えることができる。
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・特許電子図書館を使って、目的の特許情報を検索することができる。
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・パスワードの重要性が理解できる。 ・共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違いが理解できる。 ・著作権等の様々な権利を理解できる。
過程	時間	主な学習活動
課題 把握	第1時 ～ 第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・パスワード、コンピュータウイルスとウイルス対策ソフトについて学ぶ。 ・不正アクセスとファイアウォールについて学ぶ。 ・セキュリティポリシーやアクセス制御、VLANについて学ぶ。 ・暗号化やフィルタリング、電子透かしなどの技術とパリティチェックの仕組みについて学ぶ。 ・共通鍵暗号や公開鍵暗号、SSLなどの暗号化の仕組みとデジタル署名の仕組みについて学ぶ。 ・個人情報の保護に関する法律や情報公開について学ぶ。 ・商取引や不正アクセス、プロバイダなどに関する法律について学ぶ。 ・知的財産権の種類と産業財産権について学ぶ。 ・著作者の権利と伝達者の権利と著作権の例外規定について学ぶ。 ・著作物を利用する際の方法と不正コピーを防止する方法について学ぶ。

課題 追究	第6時	・個人情報の保護や知的財産権について、実際に発生している事例をインターネット等で調べる。
	第7時	・前時に調べてきた事例について、グループ内で発表した上で問題点を整理し、未然に防ぐためにはどのような取組が必要かを考える。 ・他者の考えを理解し、自分の意見を伝えるためにアサーティブな表現を考える。
まとめ	第8時	・前時にグループで考えた事例の問題点や未然防止に向けた取組を、クラス全体に向けて発表する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全8時間計画の第7時に当たる。第6時に個人情報の保護や知的財産権について実際に発生している事例を各個人で調べている。本時は、第6時に調べた内容を、グループで発表し合う。その際、他者の考えを理解し、自分の考えを上手に表現することを目標とし、次の活動を手立てとして行った。

<p>手立て1 「自他を大切にできる態度を身に付けるためのワークシートの工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表の良い点をアサーティブな表現で付箋に記入するとともに、ワークシートには付箋の貼付欄を設定することで他者からのメッセージを可視化し、自他を大切にできる態度と自他の権利を尊重する態度を身に付ける。 ・他者の発表時に記録を取る欄をワークシートに設定することで、他者の考えを理解しようとする態度を身に付ける。 <p>手立て2 「主体的に他者と関わる態度を身に付けるためのグループ学習の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの司会者や発表順を生徒主体で決定することで、主体的に他者と関わる態度を身に付ける。 ・個人情報の保護や知的財産権に関する調べ学習において、自ら選択した課題によってグループ編制を行うことで、自分事として考え、主体的に他者と関わる態度を身に付ける。

4 授業の実際

個人情報の保護や知的財産権について実際に発生している事例を前時に調べた。調べた内容をグループの中で発表し合うことで、個人情報の保護や知的財産権についての情報を共有し、深い学びにつなげる。さらに、問題点や未然防止に向けた意見をグループで話し合うことで、他者の考えを理解し、自分の考えを伝え合うことのよさを体験する。また、自他の頑張りを互いに認め合うことで自他を大切にできる態度を身に付ける一助とすることを本授業のねらいとした。

(1) 手立て1 「自他を大切にできる態度を身に付けるためのワークシートの工夫」

他者の発表時に記録を取る欄をワークシート(図1)に設定したところ、他者の発表を一生懸命書き取る生徒の姿(次頁図2)が見られた。この欄は、発表者の良い点を付箋に書いて交換する際にも、発表の振り返りに活用されており、他者の考えを理解する態度を身に付けることに効果的に働いたと考えられる。また、発表前から発表者氏名をワークシートに書き込み、発表を楽しみに待つ様子も見られ、他者を受容する態度の育成にも繋がったと判断できる。

他者の発表に対してアサーティブに感想を記入する活動では、生徒が心から楽しんで発表者への感想を書き込む様子(次頁図3-a, b)が見られた。「同じ事件の内容だったのに、違う目線から書けていて良かったです」「いつ起こった事件なのか書かれているのもっと良かったと思いました」などの感想から、調べた内容や発表態度の良かった点のみならず、こうするともっと良くなるといった生徒自身の意見なども書かれており、自他を大切にできる態度の育成に繋がったと考えられる。それは、ワークシートの「自分も相手も大切にできる(アサーティブな)表現を学んだことで、相手を思いやって行動



図1 ワークシート

しようと意識するようになりましたか」の問いに対し、96.8%の生徒が「とても」と回答した結果からも読み取ることができる。また、この活動後のグループの話し合い活動では、生徒同士の緊張感もほぐれ、他者から認められた安心感を持って臨むことができ、より活発な意見交換が行われた。互いを認め合う活動を授業の中盤で行ったことは、後半の活動をより効果的に進める上で大変有効であると考えられる。



図2 発表の様子



図3-a 付箋に書き込む様子

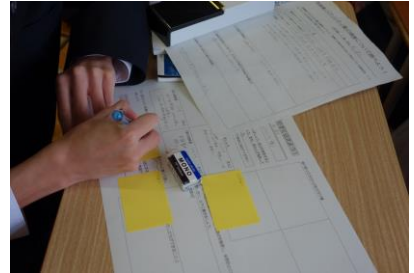


図3-b 付箋に書き込む様子

(2) 手立て2 「主体的に他者と関わる態度を身に付けるためのグループ学習の工夫」

調べ学習を行う前に、生徒自身にどの課題を調べたいかアンケートを行い、その希望を基に課題決定とグループ編制を行った。自ら選択した課題であるので、課題を自分自身に関わる事であると捉えて真剣に調べる様子が見られた。さらに、グループの発表時に他者の発表内容について「それはどういうこと？」などと互いに質問し合う様子が見られ、自ら課題を選択したことは、主体的に他者と関わる態度の向上に寄与したと考えられる。

グループの司会者や発表順を生徒主体で決定したことにより、グループでの発表や話し合い活動において生徒の主体性を引き出すことができた。司会者は主体的にグループの活動を円滑に進めようとする姿が見られ、他の生徒は司会者に協力して話し合い活動を行う様子が見られた。

これらのことから、自ら選択した課題によってグループ編制を行ったこと、司会者や発表順を生徒主体で決定したことは生徒が主体的に他者と関わる態度を身に付けることに有効に働いたと考えられる。それは、ワークシートの「グループの発表や話し合い活動では、他の人と積極的に関わることができましたか」という質問に、「とても」と答えた生徒が90.6%いたことから明らかである。

5 考察

手立て1では、自他を大切にすることを意識しながら発表者に感想を書いて渡した。1学期から継続して、自他を大切にすることを学び、具体的な場面でどのように自己表現すると良いかを考えてきた。相手の気持ちを考えながら、自分の気持ちも正直に表現することは時に難しいが、授業内で繰り返し実践することで生徒自身の意識に働き掛けてきた。その成果として、本時においても、他者を思いやり自分の考えも正直に伝える感想が多く見受けられた。さらに、ワークシートにおける振り返り欄の「発表者の感想を付箋で交換したことで、お互いのよさを見付け、認め合えたことを実感できましたか」という問いには、100%の生徒が「とても」と回答していることから、自他を大切にすることを身に付けることができたと考えられる。

その一方で、ワークシートや付箋などに具体的に記入できない生徒もわずかに見られた。生徒に提示するアサーティブな表現の具体例の数や授業内でアサーティブな表現を考える場面を増やすことで、自他を大切にしたい自己表現ができる能力のさらなる向上を図っていききたい。

手立て2の自ら選択した課題でグループ編制を行ったことは、生徒自身が自分事として考え、主体的に他者と関わる態度を身に付ける上で有効であった。自ら選択した課題であるので、興味を持って調べ学習をし、グループの発表者に対して主体的に質問をすることができたのではないかと考える。また、司会者や発表順を生徒主体で決定したことで、生徒同士が協力し合いグループ活動を円滑に進めていくことができた。さらに、発表後に自然と発表者に対して拍手をすることができ、発表者の頑張りを生徒同士で認め合う様子が見られた。生徒主体でグループ活動を進めたことは、生徒自身が持っている他者への思いやりを自然に引き出すことに繋がり、想像以上の効果をもたらした。